

市民の伊勢志摩サミット

気候変動・生物多様性・防災分科会 提言

2015年9月に採択された「私たちの世界を変革する：国連持続可能な開発のための2030アジェンダ（アジェンダ2030）」では、今日の世界が直面する課題として気候変動、生物多様性の喪失、深刻化する災害リスクをあげています。アジェンダ2030採択後初めてG7首脳が集う伊勢志摩サミットでは、G7諸国が巨万の富を得ながら莫大な環境負荷を地球に与え続けていることを認識した上で、自然・環境的に持続可能性を確保し、将来世代を含む地球上のすべての人が尊厳をもって安心・安全な生活を送ることができるよう、その責任に見合った明確で野心的なメッセージを打ち出すべきです。

気候変動、生物多様性、防災というテーマは、ひとつひとつが重要なグローバル課題であると同時に、相互に密接に関連する関連です。気候変動が深刻化すれば、生物の生息域の変化及び種の絶滅リスクが高まるとともに、気候関連災害がより劇甚なものになります。生物多様性が失われることは、気候変動の原因であるCO₂を吸収する自然生態系の能力が損なわれるとともに、災害リスクを低減させる自然環境がより脆弱になることを意味します。深刻な災害が頻発すれば、気候変動対策の進展が損なわれ、自然生態系も回復力を上回る被害を受けるリスクが高まります。

一方、これら3つの課題に取り組むことは、いずれもあらゆるリスクに脆弱な貧困層をまもり、不公正を是正し、豊かな自然環境を将来世代に引き継ぐことに貢献します。この間、気候変動に関するパリ協定、生物多様性に関する愛知目標及び名古屋議定書、仙台防災枠組といった国際合意が実現してきており、これを迅速かつ適切に実施していくことが大きな課題となっています。それぞれの分野の対策の間でジレンマが生じないように、分野横断的な検討を通じて、より適切なアプローチをとる努力をすることが必要です。

以上の課題を踏まえ、気候変動・生物多様性・防災分科会は、G7伊勢志摩サミットに向けて特に次の点を提言します。

気候変動

- 産業革命前からの地球平均気温上昇に関する「2°C目標」に整合するような資金の流れを形成する意思を示すこと。化石燃料や原子力といった汚くリスクの高い、大規模集中型のエネルギーではなく、小規模分散型、地域主導の再生可能エネルギーにこそ資金が振り向けられるべきです。

- 質の高いインフラ投資の議論において、「2° C 目標」に整合することを条件とし、石炭火力発電所はその対象から除外すること。CO2 排出が莫大で硫黄酸化物、窒素酸化物、PM2.5、水銀といった環境汚染物質を排出する石炭火力発電所は、たとえ高効率・低排出とされる技術を用いたとしても 2° C 目標とは整合しないことが明らかになっています。
- 今世紀後半に温室効果ガス排出をゼロにするというパリ協定の長期目標を達成するために、エネルギー効率化を進めるとともに、原子力や化石燃料からの脱却と再生可能エネルギーの導入を進め、再生可能エネルギー100%を実現すること。その過程では、生物多様性を損なったり、災害リスクを高めたりするような大規模事業ではなく、小規模分散型で地域主導の適切な合意形成プロセスをとるべきです。

生物多様性

- 気候変動の緩和と適応や防災・減災において、その有効性が国際的に認められる「生態系にもとづくアプローチ (Ecosystem Based Approach)」を積極的に採用するよう合意すること。質の高いインフラの実現のために重視すべき視点です。
- 気候変動・エネルギーや質の高いインフラ投資の文脈においては、エネルギー・インフラ事業が地域社会や生態系に及ぼす影響に十分に配慮し、想定されるリスクについての説明、住民参加型の合意形成プロセス、環境アセスメント、建設後のモニタリング、リスク対応、情報公開の体制を構築すること。誰のためのインフラ投資であるかを、長期的視点から考えることが必要です。

防災・減災

- 質の高いインフラ投資の議論において、市民参加や合意形成を尊重し、多様な地域の実情に十分配慮したインフラ整備を進めること。持続的な発展及び、地域のレジリエンスを高める再生、復興には、風土や文化、暮らしなどの地域のアイデンティティを活かした進め方が必要不可欠です。
- 災害への対応は「減災」の考え方を基準とし、自然生態系の機能を活用した「グリーンインフラ」も積極的に採用することで、選択的・複合的国土利用を考えたインフラ整備を進めること。質の高いインフラ投資の文脈において、このような観点が重視されるべきです。

■呼びかけ団体/賛同団体（者） 10 団体 3 名 （5 月 28 日現在）

- 特定非営利活動法人 日本ゼリスケープデザイン研究協会 高松支部
- 特定非営利活動法人 アフリカ日本協議会（AJF）
- 特定非営利活動法人 みえ NPO ネットワークセンター
- 特定非営利活動法人 ユニバーサル就労センター
- 特定非営利活動法人 四日市 NPO 協会
- 特定非営利活動法人 市民社会研究所
- ユニバーサルデザイン・ステップ
- バイオダイバーシティ・インフォメーション・ボックス
- 特定非営利活動法人 泉京・垂井
- 合同会社グリーンアンブレラ
- 清水 香子
- 魯 慈忍
- 津山 直子